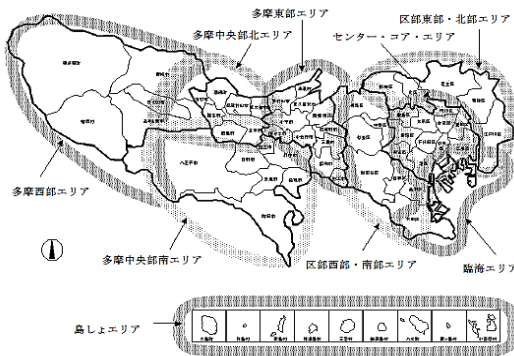


## 自動車の利用実態とZEVの普及条件は

### ◆東京都全域対象に自動車の利用実態とZEVに関する意識調査を実施

2023年3月、東京都は「自動車利用と環境に関する世論調査」（22年10月実施）の結果を発表した。10年、18年に続く、3回目の調査で、東京都全域（区部・市町村部の7区分）の住人が対象である。自動車の保有・利用実態や環境関連の電気自動車など（ZEV\*1：ゼロエミッションビークル）に関する意識について調査し、性・年齢、職業、居住エリア、住居形態別など詳細を分析している。

#### 【区部・市町村部の7区分】

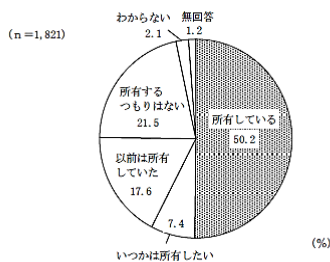


東京都は、22年9月に環境基本計画を改定し、30年までに新車販売の100%非ガソリン化\*2やZEVの販売割合を50%とすることを目指している。調査結果は、ZEVの普及促進など、移動における脱炭素化を推進する施策に活用する。

### ◆自動車所有の有無は、エリアや年代別で違いが

#### 【自動車所有の有無】

問2 あなたのお宅（世帯）では自動車（自動二輪車は除きます。）を所有していますか。（自家用だけでなく、仕事用の自動車も含みます。また、リース契約で使用されている車も含みます。）（〇は1つ）



例えば、車の所有状況では、「所有している」が50%、「いつかは所有したい」が7%、「以前は所有していた」が18%、「所有するつもりはない」が22%である。

エリア別では、「所有している」が、市町村部は68%で、区部の41%より、27ポイント高い。区部は、公共交通機関が充実して

いて、車を所有する必要がなかったり、駐車場代などの所有コストの負担が重くなったりするといった理由が考えられる。性・年齢別では、「所有している」は、男性50代で7割、男性60代で6割を超えている。一方、「所有するつもりはない」は男性30代、女性18～29歳で3割を超えている。

\*1 ZEV (Zero Emission Vehicle (ゼロエミッションビークル)) とは、電気自動車 (EV) やプラグインハイブリッド自動車 (PHV EVモードによる走行時)、燃料電池自動車 (FCV) など、走行時に二酸化炭素等の排出ガスを出さない自動車の総称。

\*2 非ガソリン化とは、ZEVとハイブリッド自動車にしていこと 出所：東京都環境基本計画 第2部

◆ZEV購入検討は1割弱、購入はさらにその2割弱

ZEVの認知度は、「電気自動車（EV）」が85%と最多で、「プラグインハイブリッド車（PHV）」が54%、燃料電池自動車（FCV）」が37%の順である。

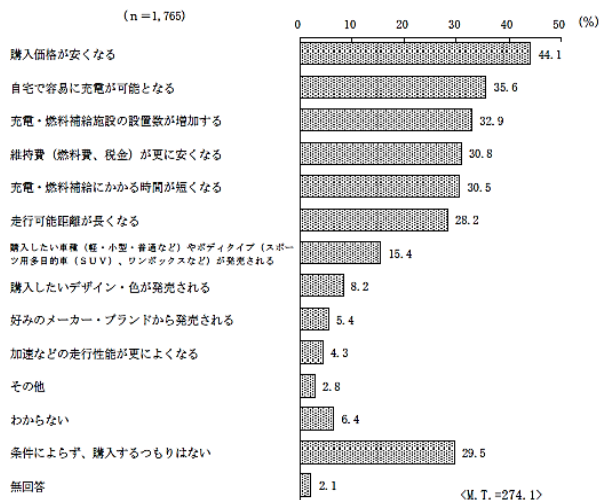
ZEVの購入については、「検討したことがある」は9%で、30歳未満男性と50代男性での比率が高い。「検討したことはない」が90%を占める。購入検討者のうち実際に購入したのは17%である。年齢別にみると、30代は24%が購入しており最も高い。住居形態別では、一戸建居住者で19%、集合住宅では14%である。

なお、今回は前回の調査と調査方法が異なるため単純比較はできないが、「購入した」は18年より10ポイント増加している。

◆ZEVを購入または検討したいと思う条件は価格と充電のしやすさ

【ZEVを購入または検討したいと思う条件】

問 8-2 どのような条件を整えば、電気自動車等（ZEV）を購入または検討したいと思えますか。次の中からいくつでもお選びください。（〇はいくつでも）（M.A.）



調査では、ZEVを「検討したことはない」または「（検討したが）購入しなかった」と回答した人を対象に、どのような条件を整えば、ZEVを購入または検討したいと思うかを聞いている。（複数回答）

「購入価格が安くなる」が44%で最も多く、「自宅で容易に充電が可能になる」が36%、「充電・燃料補給施設の設置数が増加する」が33%と続く。「購入価格が安くなる」

は、市町村部では5割を超えており、区部より8ポイント高い。性・年齢別では、30代男性は「維持費（燃料費、税金）が更安くなる」が5割近くと他の年代より突出して高い。一方、「条件によらず、購入するつもりはない」が30%である。これを性・年齢別でみると、男性70歳以上で40%、女性70歳以上で55%と、それぞれ全体平均を大きく上回る。

本調査は東京都の調査であるが、大都市の区部から島しょエリアまで広範囲にわたる地域、多様な住人を対象としている。調査結果をもとに展開する施策は、他の自治体や民間事業者のZEVの促進策の参考になる可能性がある。【新井佳美】